

チャレンジ・フォーラム 事例発表
「生物多様性の保全と活用の推進」
発表自治体：北広島町

【発表者】白川勝信さん（北広島町芸北高原の自然館）、中野愛さん（北広島町商工観光課）、近藤紘史さん（芸北せどやま再生会議）、片桐義洋さん（ヒラト産業株式会社）、中島康弘さん（NPO法人西中国山地自然史研究会）、杉本洋子さん（北広島町観光協会）、西村啓太さん（芸北トレッキングガイドの会） 《順不同》

○司会：次の発表は、北広島町からの発表でございます。「生物多様性の保全と活用の推進」について、芸北高原の自然館の白川さん、商工観光課の中野さん、芸北せどやま再生会議委員の近藤さん、ヒラト産業株式会社の片桐代表取締役、NPO法人西中国山地自然史研究会理事の中島さん、北広島町観光協会の杉本さん、芸北トレッキングガイドの会の西村さんから発表していただきます。それでは、よろしくお願いたします。

○白川さん：皆さん、こんにちは。太田川の一番上流域から来ました白川と申します。今から今日の発表を一緒に手伝ってくれる皆さん、北広島の施策を一緒に進めている仲間を紹介しますので、ぜひ拍手でお迎えください。（拍手）

○片桐さん：芸北は大暮養魚場から参りました片桐義洋と申します。よろしくお願いたします。（拍手）

○中野さん：北広島町役場商工観光課の中野と申します。北広島町の魅力をたくさんの方々に伝えていくキャンペーンを主に担当しております。よろしくお願いたします。（拍手）

○中島さん：NPO法人西中国山地自然史研究会の中島と申します。自然保護をテーマに頑張っております。よろしくお願いたします。（拍手）

○杉本さん：こんにちは。北広島町観光協会芸北支部で事務局をしております杉本と申します。トレッキングガイドの運営にもかかわっております。どうぞよろしくお願いたします。（拍手）

○西村さん：芸北トレッキングガイドの会の西村です。普段はリンゴ農家をしています。よろしくお願いたします。（拍手）

○近藤さん：皆さん、こんにちは。芸北せどやま再生会議の近藤と申します。「近藤チェーンソー」と呼ばれるぐらい、木を切っていこうかと思っております。よろしく願います。（拍手）

○白川さん：それから会場のほうにもう一人、役場から道川さんが来ています。どうぞよろしく願います。

今日はこの8人で話題を提供しにきました。タイトルは「生物多様性の保全と活用の推進」です。「生物多様性」という言葉をご存じの方は、どのくらいおられますか？

さすがですね。たくさんおられます。ありがとうございます。この「生物多様性」という言葉は、だんだん一般化してきたのですが、まだ十分ではありません。

北広島町は豊かな生物が生息・生育しています。これはサツキマスとって、ダムから上がってきてちょうど今、産卵の時期を迎えている魚です。このような、いろいろな生き物が暮らしていること、そして、それぞれが関係していることを「生物多様性」と呼びます。

生物多様性というのは、ただ単に「たくさん生き物がいる」というだけではなくて、私たちの生活に、とても重要な役割を果たしてくれているんです。いろいろな資源を供給してくれること、水や空気をつくる基盤的なこと、洪水などの調整、そして教育や芸術などの文化を育むことなどです。そして、自然の中でいろいろなものが保全されているというのは、それだけで大きな資源です。

ところが、この生物多様性がいろいろな理由で、今、失われつつあります。一つ目の理由は乱獲や開発。二つ目は里山の荒廃。これはどこの中山間地でも、島でも起きていることです。それから外来種の増加です。

こうしたことに対応するために、北広島町では「生物多様性の保全に関する条例」を作りました。この条例の中核を成すのは、種の保全、生息環境の保全、外来種対策、回復事業の4点です。それから推進体制を整備すること、そして罰則の規定もあります。

この条例の中で、「町長は、生物多様性きたひろ戦略を定める」とされています。生物多様性きたひろ戦略とは、「今から北広島町がどうやって生物多様性を保全していくか」という戦略です。これを考えるために審議会をつくりました。審議会のメンバーは専門家だけではなく、地域の方たち、狩猟関係者、漁業の関係者などいろいろな分野の人に入っていました。

また、この審議会のバックアップをする形で、各審議会委員の活動分野に対応する役場担当課から、職員が加わりワーキンググループをつくりました。こうすることで、行政の役場の中での話と、審議会の中での話とが伝わるようになりました。

審議会の委員は、それぞれの団体の代表です。しかし、各団体に属する人たちが、生物多様性という言葉をほとんど知らないのです。どのようにして意見を集めようか、ということになりました。そこで、生物多様性キャラバンというのを実施しました。

生物多様性キャラバンとは、審議会の委員や役場職員が、各地域、各団体に出掛けて行ってワークショップをする、という取組です。あなたのところの生物資源にはどんなものがありますか、あるいはそれをどうしたいですか、ということ、町民のみなさん自身に考えていただき、そこで出た意見を審議会に持ち帰って、戦略をつくろうというやり方です。

キャラバンは、住民団体、学校関係、漁協など、いろいろな所で実施しました。ポストイットを使って参加者が思いついた事をどんどん書いていき、それを後でまとめるという形が一般的ですが、多いときにはワークシートも活用したりしながら、全員が、たくさんの意見を出せるような工夫をしました。そして、生物多様性きたひろ戦略がこの3月に発行されました。

キャラバンを進めていく中で、少し気付いたことがあります。生物多様性の保全に関する条例は、北広島町が有する多様性を保全するための条例で、町民の豊かな生活を保証する目的で制定されました。つまり、自然の保護のためではなくて、それによって町民が豊かにならないと、この条例の目的は達成されないわけです。では、町民にとっての豊かさって何だろう、という問いが、このキャラバンの間に考えなければいけなかったことです。

北広島というのは自然の恵みによる食材、囲炉裏のある生活、田園風景などが日常的に見られて、とても豊かな所だなと僕は思います。これだけで、北広島町の暮らしはとっても豊かだと思うのですが、地元の人からは、合格はもらえないんですね。「白川君、それだけじゃ生きていけんよ」と言われてしまいます。

生物多様性というのは、どちらかという、社会的な課題です。一方で、その生物多様性を支えていたもの、つまり里山を支えていたのは、農耕を中心とする、地域の文化や行事だったわけです。この二つのつながりを今つなぎとめておかないといけない。そのために町としては一つ制度をつくりました。先ほどの条例であり、戦略ですね。もう一つ、重要なキーワードが経済です。

この二つがそろった社会の仕組みができなければ、地域は豊かになれないし、生物多様性の保全も実現されません。結果から言いますと、戦略をつくっていく段階から、つくった後にもいろいろな事業がおきてきています。今ここにいる仲間たちがどんどん進めている事業です。

そしてもう一つの気付きですが、例えばガイドツアーで町外から来た人を案内するということは、自分たちの地域のことを「改めて知る」ということになり、地域のアイデンティティを再確認することにつながります。

こうしたユニークな事業の一つ、芸北せどやま再生事業を紹介します。近藤さんが進められている事業です。この事業では「せどやま（家の裏の山）」の木を切って持っていくと、重さを測ってくれて、木を地域通貨に換えてもらえます。地域通貨は、地域内のお店で使うことができます。この写真の方も、自分で木を出して、地域通貨で買ったどぶろくを飲んでいきます。北広島町はどぶろく特区で、おいしいものがありますので、ぜひ飲んでくだ

さい。やはり人間の燃料と車の燃料が一番使われているようですね。

集まった木は、薪にして販売されます。薪ストーブを使っている方は町内におられるので、地域の中でエネルギーの循環ができます。

事業全体をまとめると、山では、木を切ることで里山が整備され、生物多様性が高まる。里では、せどやま市場に木が運ばれることでエネルギーの地域流通が起こる。地域の商店では、地域通貨で地域内の経済の流通がおこる。このように、山にあるエコロジーの問題、エコノミーの問題、エネルギーの問題、この三つに対応できる事業であると考えています。

そして、何よりも、ふるさとの美しい景色が残されるというのが、芸北せどやま再生会議に加わっているメンバーのモチベーションになっているようです。

北広島町の生物多様性に関する取組では、「地域の中で、どんな豊かさを皆で起こしていくのか」を見極めるための共有のプロセスをととても大事にしました。地域の生物多様性を考えることは、結果的には地域のアイデンティティを再認識するきっかけとなりました。この取組により、既存の事業には生物多様性の視点が加わり、また新たな事業もそこから生まれつつあります。

北広島町はこれからもますます楽しくなっていくと思います。

最後に、ビデオを見ていただきます。

（DVD上映）

以上のようにいろいろな分野の人が生物多様性の取組に関わっております。

皆さん、北広島町のほうにぜひ……。

〇一同：来てね。（拍手）